

議会広報広聴委員会記録

令和6年3月21日（木）

14時59分～16時34分

第4委員会室

【出席者】 村武委員長、村木副委員長、
肥後委員、大谷委員、三浦委員、沖田委員、川上委員、上野委員、
西田委員、川神委員

【議長団】 笹田議長

【事務局】 下間局長、村山書記、小寺主事

議題

1 地域井戸端会の開催について……………資料1

(1) 運営方法等詳細協議

(2) その他

2 広報活動について……………資料2

(1) 新たな情報発信の検討

(2) その他

3 議会だよりの紙面について……………資料3

(1) 紙面の見直し及び取扱

(2) その他

4 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[14 時 59 分 開議]

○村武委員長

ただいまから議会広報広聴委員会を始める。出席者は9名で定足数に達している。大谷委員は広域行政組合議会に出席されているので、終わり次第こちらに来られると伺っている。それでは議題に入る。

1 地域井戸端会の開催について

(1) 運営方法等詳細協議

○村武委員長

事務局からお願いします。

○村山書記

(以下、資料を基に説明)

○村武委員長

班編成は済んでいるが、議会広報広聴委員が中心になって進めてもらいたい。委員の役割は先ほど事務局から話があったように、チーム内の日程を聞いて会場との日程調整をしてほしい。これを4月5日までに行わないといけないので、委員はそれぞれよろしくお願いします。

まちづくりセンターの減免申請書は、決まったらまちづくりセンターに私たちが持っていくのか。

○村山書記

はい。

○村武委員長

昨年私が二反田の担当だったのだが、代表の自治会会長と話をした。連絡先などは分かるか。

○村山書記

まだ確認していない。

○川神委員

去年終わった後に伺ったが、今は確か長沢町1の4町内会長が鍵管理をされていると思う。私も知らぬふりはできないので日時等決まったら話をしておこうと思うが、正式には担当から連絡してもらいたい。日時が決まったらまた言ってほしい。

○村武委員長

二反田は西田委員と上野委員なので、よろしくお願いします。それから班の中で、まず当委員会委員がリーダー的な役割の方を決める。当日の役割は、全体の司会進行が要ると思う。あとは常任委員会ごとに分かれてテーマで話をすると思うので、各テーブルの常任委員会の方に進めてもらうことになると思う。ほかに役割としては、報告書を上げていただくのだが、去年は当委員会委員がまとめて提出する形だったが、

そこも班の中でどなたかがまとめたものを提出いただく形でも良いのではないかと考えるのだが、皆どう思われるか。

○川上委員

班で話して進めれば良いのでは。

○村武委員長

では班内で役割分担して、その役割が決まったら、報告書担当者は事務局が把握しておきたいため事務局に連絡していただきたい。よろしいか。

(「はい」という声あり)

ほかに地域井戸端会について、何かあるか。

○三浦委員

日程調整するに当たって会場で重複する部分が出てくのではないと思うが、調整する際の注意事項があれば共有しておいたほうが良いと思う。

○村武委員長

去年は重複するところがいくつかあったと思うが、あまり気にせず実施した。重複しても問題はないかと思う。

○川上委員

多分重複しないと終わらない。

○三浦委員

そういう方針であれば、それを共有しておいたほうが良いのではないか。

○村武委員長

問題ないかとは思うが、議長と副議長と村木副委員長は各会場の補助をすることになっている。この3人が必ずどこかに行かないといけないとは決めてないが、そこはどうか。去年は全部に議長か副議長に行ってもらっているか。

○村山書記

議長が行ける範囲で全ての会場に。同時開催の場合は一定の時間がたったところで次の会場に行ってもらっている。

○村武委員長

そうであれば、行けない会場ももしかしたら出てくるかもしれないが、重複はしても良いということで皆と共通理解をしたいと思うが、それでよろしいか。

(「はい」という声あり)

○三浦委員

子育て支援センターの開催時間については、昨年設定時間があまり良くなかったのではないかという反省があったと思うので、配慮して週末などにしたほうが良いのではないかと思うが、どうだろうか。

○村武委員長

本当におっしゃるとおりで。去年は平日夜ということで恐らく集まりにくかったのかと感じている。できれば週末昼間などで組めたら良いとは思っている。すすすくの方とも相談しながら調整していきたいと思うが、何かこれについてこうしたら良いのでは

ないかというご意見などがあればお出しいただきたい。いかがか。すくすくの方に、集まりやすい時間などを聞いてみようと思う。それでよろしいか。

(「はい」という声あり)

ではそのようにさせていただく。すくすくは私と大谷委員で。ほかに地域井戸端会について何かあるか。

(「なし」という声あり)

4月5日までに日程調整をお願いしたい。チラシとポスターは4月12日から周知開始となっているが、これまでに配っていただけけるか。

○村山書記

4月5日に再度議会広報広聴委員会を開き、メインとしては議会だよりの校正作業になるのだが、そこでまた説明させていただきたい。

○小寺主事

周知方法だが、これは昨年同様のものを記載しているものだと思っている。去年はなかなか人が集まらなかった会場もあったと思うが、これに加えて何か皆から、加えたほうが良い周知方法の案があれば、ぜひいただきたい。このままでよろしいかどうかと、皆でお声掛けいただくのも当然あるかと思う。

○村武委員長

何か周知方法についてご意見があればお願いしたいが。

○川上委員

金城は行政無線の放送を使って2回くらい流した。

○村武委員長

それはどこに言えば良いのか。

○川上委員

支所の防災自治課へ。

○上野委員

旭もそう。

○村木副委員長

三隅はケーブルテレビに切り替えた。

○村武委員長

弥栄はあるか。

○川上委員

あるなら使おう、せっかくだから。

○村武委員長

ある地域には放送してもらおうということでもよろしいか。

(「はい」という声あり)

○川上委員

前日の夕方と当日朝が結構良いと思う。

○村武委員長

ほかにあるか。

○西田委員

私と上野委員、牛尾委員の3人の班は、去年二反田や井野へ行ったがどちらもゼロだった。去年を振り返ると井野は、まちづくりセンター長から直前に電話があり「今まで申込みが何もないのだが、このままで良いのだろうか」と言われた。動員を掛ければ何人か来るのかもしれないが、毎回センターから動員してもらえば良いのか。そうすると毎回同じような人が来る。ほかもそうだが、参加者がゼロだと議会に悪いと言って地区まちづくり推進委員会の役員に声を掛けて何人か集めるなど、精いっぱいのことをやっておられた。何もせず、今ここにあるような周知方法だと、下手するとゼロという状況にもなりかねない。我々も含めて動員をある程度掛けて毎回格好を付ければ良いのか、それともこれが当たり前で自然体で、自ら地域井戸端会に参加しようという市民意識を養うのが良いのか。その辺を調整しながらやっていかなければいけないのかと思う。放っておけばまたゼロの会場が出る可能性もある。

○村武委員長

二反田はゼロではなく、1名おられた。

○西田委員

その辺はどうしたら良いか。

○村武委員長

私としては動員という形ではないが、まちづくりセンターに来られる方に、地域井戸端会があるので参加されないかといったお声掛けなどはしていただけたらうれしい。実際私がいたまちづくりセンターは、お願いしに行ったときに、そういう形で声掛けをしていただけないかというお願いはした。まちづくりセンターによっては地区まちづくり推進委員会に声を掛けられたところもある。たくさん行ったほうがたくさん意見が出るので、本当に声掛けを一生懸命して人数を集められている場所もあると思う。ただ、絶対何人いないといけないといったことはないと思うが。

○川上委員

私は去年と今年同じ会場に行くので、またかと言われるかもしれないが。

○村武委員長

議員から声を掛けられたりは今までされているか。

(「掛けている」という声あり)

そういった形で、できる場所は声を掛けることが必要かと思う。ただ、まちづくりセンターでやる場合はセンター職員が声掛けすることも可能だと思うが、二反田に関しては難しい。職員がおられるわけではないので、二反田に関しては考えないといけないかと思う。

○川神委員

確かに、これが終わったときにたまたま出会った人から「ほぼ地元民は来てない」と言われた。僕もあえて案内はしてない。そうしたときにはやはり周知はあったほうが良い。声を掛けていただければ自分たちも出やすいということもあったので、

その辺はバランスを考えてやらなければいけない。多分呼べばいくらか来ると思う。ただ、それが本当の意味で参加する自分の意志なのか、ただ呼ばれて話を聞くのがプラスになる場合もあるので、一概に無理やり呼ぶのはいけないということはないと思う。情報はある程度出して、強引なことはいないが、そういう案内をしようかと思う。

○村武委員長

二反田の外に掲示板のようなものはあったらどうか。私もよく覚えてないのだが。去年は玄関に多分ポスターを貼ってもらっていたかと思うが、掲示板があればより目に付きやすいと思う。もし貼っていただけるとよい。

○川神委員

日程はいつからだったか。

○村武委員長

5月11日から6月1日まで。

○川神委員

それなりに、いくらかアプローチはする。

○村武委員長

ほかにはよろしいか。

(「はい」という声あり)

(2) その他

○村武委員長

地域井戸端会開催について、その他、何かあるか。

(「なし」という声あり)

2 広報活動について

(1) 新たな情報発信の検討

○村武委員長

村山書記から説明をお願いします。

○村山書記

(以下、資料を基に説明)

○村武委員長

これについても正副と事務局と事務局長にも入ってもらって色々話をさせていただき、今回のこういった提案という形にさせていただいた。私の思いとしては、今現在も広報活動はしているが、やはりそこだけでは少し足りないと感じている。それは先ほど事務局からもあったが、先日の島根県立大学との意見交換のアンケートでも、SNSの利用について載っていたし、より広く情報提供をしていきたいと考えているので、以前からSNSについて検討していこうと言っていたがなかなか進まなかったところがあり、今回このように皆と考えていけたらと思っている。

2番の情報発信の方法で3点ほど提案している。①のホームページやYouTube

に誘導するための二次元コードを議員の名刺に記載したり、または専用カードを作ったりすると良いのではないかという提案を考えている。これはどうだろうか、分かるだろうか。

○川上委員

議会へ誘導するのに二次元コードが要るのか。

○村武委員長

今皆それぞれの名刺を持っておられると思うが、それに浜田市議会ホームページやY o u T u b eの二次元コードを印刷して周知していただくことも、もしかしたらできるのかと思っている。ただ、名刺は議員各自で作られるので全員必ずできるかは分からないが、できる方はやっていただけると良いと考えている。それに対してご意見いただけたらと思うがいかがか。例えばできるとか、それは難しいとか。

○川上委員

何もない。

○西田委員

二次元コードの小さいシールを作ると良い。シールは事務局で作ってもらって。名刺だけでなく色々なものに貼ってお渡しできるように。

○小寺主事

私も名刺にホームページとY o u T u b eの二次元コードを入れているのだが、データがあるので、データを皆に提供することは比較的すぐにできる。議会広報広聴委員だけに限らず全議員に、何かしらアナウンスできたら良い。シールとなるとなかなか、読み取りやサイズの問題もあるので。データだと比較的皆も入れやすかったりするかと、個人的には思った。

○肥後委員

小寺主事の名刺を見る限り、かなり小さくても読み取り可能らしい。自分はすでに名刺を刷ってしまった。接着はこちらで考えるので紙でもらえれば、コストが安く済むかと思ったのだが。

○小寺主事

もう印刷されてしまった方は、それを刷り直してという話では当然ない。タイミングもあると思う。できるときに、できる人が、できることをやっていただけたら良いかと思う。

○村武委員長

ほかにないか。

○大谷委員

広域議会のため遅くなった。入り口部分も必要だが、前も申し上げたが入ったときに、何だこれくらいかという感想がもしも伝わってしまうと次の機会をつくりにくくなる。ホームページの中身の改革も一緒に話をしていったほうがよろしいのでは。

以前に出雲市議会の例を挙げたが、どこからでも個人のところに入るように、色々な角度から見やすくなっている。今の浜田市議会ホームページは、1回戻って次のと

ころへ下りていくスタイルになっているので、どこからでもどのサイトにも、意識があれば行けるような改革もしておいたほうが、おもしろいと思って活用していただく機会が増えるかと思う。

○村武委員長

もちろん魅力あるホームページでないと、また次見ようという思いにはならないと思っている。ホームページリニューアルの方向に向けていきたいというのは、三浦前委員長のころから事務局にも話をしていたのだが、なかなか予算的なこともあって難しかった。そこも併せて検討していきたいと思っている。

二次元コードについてはいかがか。

○川上委員

可能なところからしていく。

○村武委員長

できる方からやっていただくように、これは全議員にお願いして良いのではないかと思う。

○大谷委員

今の状態だと、お呼びしてもあまりおもしろくないと感じられるのは好ましくないという思いがあって申し上げた。

○村武委員長

つまり、今は二次元コードはしないほうが良いということか。

○大谷委員

ある程度しておいたほうが良いという思いはするが、予算がないならできないということか。

○川上委員

何をするのか。

○川神委員

ホームページの中身を充実させるというのだろう。

○川上委員

では個人の方からしたら良い。

○川神委員

中身がおもしろくなければ二度と来ないという話はよくあるが、何を掲載すれば興味を持っていただけるかは、なかなか厳しいと思う。また、それができてから二次元コードに変換させるというのはまた時間が掛かるので、ある意味同時進行でやっていく必要があるのではないかと思う。

○村武委員長

掲載内容というよりも、サイト構成のことを言われたいのだと思う。そういうのを変えるのはなかなか難しいのだろうか。

○村山書記

浜田市のホームページと同じ業者で同じものを使って作っている。いわゆるオリ

ジナルデザインとなると、専用に別途契約して作り替える必要が出てくる。

○村武委員長

また検討はしていきたいとは思いますが、ただ、それができるまで待っていると時間も掛かるかと思うので、私は二次元コードは可能な方は名刺に入れるなどの活動はしていっても良いのではないかと思うが。

○川上委員

良いと思う。できる人からやろう。

○村武委員長

できることからやっていくということで、皆よろしいか。

(「はい」という声あり)

ではこれは一応全議員に周知することが必要である。よろしいか。

○沖田委員

データを送ってくれるとのことなので、それぞれやられたら良いのでは。それほど深く考えなくて良いのではないかと思うのだが。

○川上委員

私もそう思う。

○沖田委員

名刺の印刷頻度も人によって色々あるだろうから。各議員の判断においてやられるのがよろしいかと。

○村武委員長

広報ということで、より多くの方にそれを知っていただく。ホームページがあることも知らない方が、もしかしたらいらっしやるかもしれない。

○川上委員

知らない人がいる。

○沖田委員

広報のために名刺をたくさん配るというのもいかなものかと思うが。

○村武委員長

ではそういった形でやっていきたい。よろしくお願いします。

○村山書記

名刺に記載する案と、専用カードを作る案とがある。名刺に枠が空いてない方について、名刺のように配るだけの枚数を作るのは難しいが、例えば何枚か持っていたいでその会場でここを見てくださいといった周知用として名刺サイズの専用カードに二次元コードを載せるという案も資料に載せているのだが、それについては皆どうお考えか。ご意見を聞かせてほしい。

○川上委員

これで良いのでは。

○下間局長

各自で名刺に載せてもらう方法と、それは難しいと言われる方がおられたら、例えばラミネート加工したような名刺サイズカードを21人分作って。それは事務局で作れると思うので、作って常に持っておいてもらう。何か話をする中でホームページやY o u T u b e の話題が出たときにカードを出して二次元コードを読み取ってもらうようお知らせができる。そういう専用カードである。ご自分の名刺に入れてもらうならそれはうれしいし、もう一つの手段としてそういうカードを作ってお渡しすることもできるという一つのご案内である。本当はこれを相手方に渡せるほど配れば良いのだが、それだと予算が掛かってしまうので、21枚分くらい作ることはできるので、それを常に持っていらって、何かのときには紹介してもらう方法もあるという提案である。

○川神委員

私は自分のスマホで二次元コードを表示して読み取ってもらっている。それで済むのでは。

○下間局長

そうしていただけるなら、それが一番うれしい。

○川神委員

カードを作るなど無駄なことをしなくても、自分の責任でやれば良いのでは。

○村武委員長

スマホで出すほうがスマートな気もするので、それができる方はそれをやる。どうしてもそれができないのでカードが欲しい方がいれば、それは対応していただけるということによろしいか。それについて皆はいかがか。

○肥後委員

議員は1台ずつ i P a d が支給されているので、事前に二次元コードデータをもらっておいてそれを見せれば、できる話である。

○川神委員

あまり難しく考えなくて良いのでは。

○川上委員

二次元コードを送っておいてもらえば良い。どうにでもできるから。

○村武委員長

では二次元コードを送っていただき、それを活用するという事。よろしくお願ひする。

②の議員各自が利用しているSNSを活用するという事だが、それぞれSNSで発信されている方もいらっしゃると思う。そこに可能であれば議会の広報も少ししていただけるとうれしい。今までご自分のSNSを使って議会の広報をされている方は。

○三浦委員

自分は一般質問でこういう質問をしたので見てほしいというとき、動画は市議会のY o u T u b e に飛んでもらうしかないのでは、そういうことは普通にされるのでは。僕はしている。

○村武委員長

SNSをされない方もおられるとは思いますが。

○三浦委員

それはSNSということではなく紙媒体でも何でも良いと思うが、自分の議員活動や議会の活動を紹介するのに、誘導する先が市議会ホームページというだけなので、そこでSNSの議論は少し違う。

○村武委員長

意識されている方もおられると思うが、全然意識されない方もおられると思う。

○川上委員

それは議員がすることであり、議会広報広聴委員会からほかの議員に言う必要もないと思う。それは別に関係ない話だから。せめてこのくらいのことで置いておいたらどうかと僕は思う。してくれと言うのはやめたほうが良い。

○村武委員長

やめたほうが良いか。できるだけしてくれと言っても良いのではないかと私は思ったのだが。

○川上委員

それは議会広報広聴委員会として言えば済む、それだけの話だと私は思う。

○村武委員長

皆はいかがか。

(「できる人がやれば良い」という声あり)

○沖田委員

先ほどの二次元コードもそうだが、委員会としてはなるべく皆に広めてもらえば良いのでは。それ以上、こうしろと強要はできないと思う。

○村武委員長

協力をお願いしようと思う。今まではあまりしてなかったもので、やっていきたい。次に③議会としてSNSを活用するということのところだが、議会専用のFacebookやInstagramを作ってみたらどうかと今考えている。ただ、これを進めていく上では色々な課題なども出てくると思う。実際に他市議会のSNSをごらんになったことがある方はいるか。

(「はい」という声あり)

それを見てどう思われるか。例えばそれが良いから浜田市でもやったほうが良いのではないかとか。

○川上委員

千差万別で、つまらないところもあれば良いところもある。かといって浜田市議会はまだ良い。浜田市議会の議会だよりは良いほうだと思う。

○村武委員長

今はSNSのことを考えているのだが。例えばほかの市議会のFacebookやTwitterもあると思うが。

○川上委員

議会のF a c e b o o kが要るのか。

○村武委員長

だからそこを今考えている。他市ではそういったことをやっているところもあるので、皆がどの程度、ほかの事例を見たことがあるかといったことをお聞きしたいのだが。

○川上委員

その前に、そのようなものが要るのか。

○村武委員長

それが要るかどうかというのを皆で検討していきたいと思うのだが。私としては今ある広報広聴機能に加えてSNSを、できればやってみたほうが良いのではないかと感じている。というのが、先ほどから言っているように、島根県立大学のアンケートなどにもSNSを使っているという回答があるので、より多くの人に議会活動や議会のことに興味を持っていただくようにと考えると、SNSを使っても良いのではないかと、私自身は感じている。

○川上委員

管理を誰がするか知らないが。

○村武委員長

そういう、考えないといけないことはたくさんある。もちろん今までより手間は掛かると思うが、やったほうが良いということになるのであれば進めていけたら良いと思う。私自身、費用対効果というか、やったほうが良いというところまでまだ確信を持ってない。それは私だけでなく皆も同じことだと思うので、皆と調査研究などをして進めていきたいとは感じている。

○川上委員

私は色々調査をたくさんしているので、そちらで頭がいっぱいでF a c e b o o kを出してまで議会のことをやろうとは思わない。それよりは自分のやることに一生懸命だから申し訳ない。

○村武委員長

川上委員は今後、広報広聴活動の中でこれ以上する必要はないと考えるということか。

○川上委員

今の段階以上のことを求めてやろうとしても厳しい。一生懸命やることがいっぱいある。

○村武委員長

それは川上委員だけではなく皆同じだと思う。ただ、私たち議会広報広聴委員会の委員として活動する中で、広報を考えていけないといけないと思うので、その上でこういう提案をさせてもらい、委員会として考えていきたいと考えている。

○西田委員

SNSを使って議員個々では皆されていると思う。今言われるのは、議会広報広聴委員会として議会のSNSを発信するということか。

○村武委員長

はい。

○西田委員

それは誰がするかというと委員で発信するのか、事務局と関わってやるのか。

○小寺主事

色々なやり方があると思っている。ほかの市議会にSNS運用のことを聞いてみたこともあるのだが、事務局が投稿しているところもあれば議員がやっているところ、広報広聴委員会がやっているところもある。では浜田市議会でするならどのようなやり方が良いかは、皆で検討して決めてもらえば良いかと思う。

○西田委員

中身は市議会としての色々な活動、各委員会の取組、議会の行事・イベント、研修など、そういったものを随時誰かが上げるのか。

○小寺主事

どういったことを投稿するかは、それぞれで決めることにもなるし、一例としてあるのは定例会議の予定や委員会の予定、委員会でのどのようなことがあったか、議会広報広聴委員会であれば、議会だよりを発行したので見てほしいとか、色々な内容があるかと思う。こういう視察で来られたという投稿をしている議会もあった。

○西田委員

今の情報は、普段議会のホームページを見れば大体載っていることだが、SNSで同じような中身ではあるが、より拡散して色々な人に知ってもらおう。それがメリットということか。

○村武委員長

ホームページは情報が欲しい方が入ると思うが、SNSは流れてきた情報から入っていくこともできる。フォローや登録していると、そういう情報が出やすくなってくるので、そこからホームページに飛ぶことができると思う。そういったことをこちらから提供する。

○西田委員

誰かが提供する役割をしないといけない。一つ仕事が増えることになる。

○村武委員長

色々なやり方があると思う。そういったところを調べて研究していきたいとは考えている。

○三浦委員

主権者教育の必要性がうたわれて、委員長をやらせてもらっていたときに議会で取り組もうということで、所管がこの委員会になったと理解している。そういう活動の一環で、大学生との接点を持ったときに、情報が届いてこない。自分たちはSNSツールのほうが見やすいという声があったので検討を始めているわけである。そうい

う若い人たちに議会としての情報を伝えていこうという活動を、SNSでなくても良いのだが、しかし彼らはSNSが見やすいと言っているからSNSが議論に上がっているのもあって、そこに議会としてどう対応するかだから、それに誠実に応えるのは必要なことだと僕は思う。もちろんやるとなれば仕事は増えるが、彼らのそういう意見に対してどう応えるかを考えないと、誠実な対応にはならない。そこは考えていったほうが良いのではないかと。だから僕は議論するのは賛成である。

それと大谷委員も言われたが、そういう人たちにホームページに見にきてもらったときに、そこにただただ記録がある、情報があるだけでは、メディアとしては全然おもしろくない。図書館みたいなものである。自分でそこに情報を取りに行く人は本を選べば良い。しかしメディアとしての魅力は何なのかといったときに、議会としての切り口がそこにあるのかなのか。議会は今これに注目している、このようなことをやっているという、記事を作っていないといけない。だからメディアを運営するのは大変なのだと思う。西田委員も言われたが、では誰がそれを作っていくのか、という部分が大変な作業になるというご指摘だと思う。本当にそうだと思う。

先ほどの二次元コードを名刺に付けるという話は、今あるところでどうやって誘導するかの話だから、誘導すれば良いという話だと思う。大学生たちのリクエストに応じて自分たちが議会の活動をより若い世代にどうやって情報を届けるかということはどう考えるか、という議論と、それとひも付くのだが、議会としてどういう情報発信のあり方が良いのか。これは議会だよりの内容の見直しなどにもなってくると思うが。議論するところがいくつかあるので、それを整理したほうが良いのではないかなと思う。SNSを仮に、やっぱりやったほうが良いのではないかなということを決めてから、あるいは同時進行かもしれないが、誰がやるのか。僕は基本的に議員側がやるべきことだと思っている。それをサポートしてもらうのは、もちろん事務局にもしてもらう。我々が実際どう動いていくか、何が議会としてあるべき姿なのかを議論した上で、事務局の方々にどういうところをサポートしてもらうのか、というのが議論の進め方だと思う。

確かに議員活動は色々やるのがたくさんあるのは確かだと思うが、とはいえこの議論を棚上げして良いのかというのは、また別の議論だと思う。これにはしっかり、それぞれに業務がたくさんあるとは思いますが、ここをどうしようかという知恵は皆で出していく。それをこの委員会で議論して、議会としてどうやって動いてもらうかを共有していく。そういうことだと思う。だからクリアしていかないといけないことはたくさんある。議論はしてみても、色々な手法を考えていけば良いのではないかなと思う。

○西田委員

そういうきちんとした説明なら、若者のために議論することは前向きにやるべきだと思う。

○川上委員

僕も今の説明で分かった。説明なくして急に来るから、やめたほうが良いのではないかなという話をする。中身が見えれば確かにそうだと。議員の働きとして出すべき

ものは出さないといけないという思いはある。仕事が増えるのは分かるが。

○三浦委員

そこが現実的に、自分たちが新しく取り組むということはもちろんそれだけ業務量の負担も負っていくことになると思う。その中で優先順位のようなものはあると思う。どういうところに我々が力を注ぐべきかは考えていけないといけない。川上委員が言われたように、ほかにも業務がある。そういうことになかなか手が回らなくなるとか、バランスが悪くなると本末転倒だという話になりかねない。したがってこれをやるのが本当に議会にとって良いやり方なのか、そこに注力すべきなのかというのは吟味しながら、新しい活動に取り組んでいくべきではないかと思う。

今、はまだ市民一日議会（以下、市民一日議会）をやっている。これは全然違う話だが、しかし市民一日議会には若い世代の参加が多くなっている。若い世代が注目してくれていると捉えれば、そういう活動を通じて何かできないかなど発想を転換してアプローチしてみるのもありかもしれない。ずっと情報が無くても市民一日議会をやることに若い世代が興味を持ってくれているときには、そこに向けてイベントの告知をすることも、議会の情報を発信していることにはなるので、そういうところをしっかりとやって、そこを入り口にして議会の活動を能動的に見にきてもらうようにするきっかけを作るなど。それなら大学生に対して市民一日議会のプロモーションは今で十分なのかといった議論をしながら、もっとしっかりとやろうとなれば常時SNSで何か情報発信していくよりも、まずは既存活動の充実、そこに対して大学生の参加をもっと促すために何ができるのかという議論をしていくのは大事かもしれない。決して新しいことをするだけが解ではなく、今あることをもっとしっかりとやっていこうと、議論の方向性を変えることもありだと思う。そういうことを議論していけば良いのでは。

○村武委員長

私としても三浦委員と同じようなことを言っているつもりなのだが、なかなか私の説明不足で理解が進まなかったのかもしれない。こういったことを今後研究・議論していきたいと考えている。あとは発言されてない方々、ご意見がもしあればお聞きしたい。

○肥後委員

ホームページだとおっしゃったように興味のすごくある人でないと入っていかない問題がある。他市他県の議会や行政も、ホームページを作っているがそれ以上にやはりSNSに新たに参入して、視聴者数が多いところは発信力がある。ホームページも良くできている。見ていておもしろい。もっと時流に合った形に変えていけば、より若者から高齢者まで興味を引いて、議会だけでなく普段の生活も何が問題なのか改めて考えてもらって、政治に参加してもらうことが結局住民自治につながると思う。

ただ今までどおりで情報を取りにきてくれるのを待っているだけだと、こちらから出ていく形にしないと広まることはなかなかないのではないかと正直思う。ただ、それを誰がやるのかというのであれば、やはりおっしゃるように議員がやるべきだと思う。私も研究中なのだが、新たな手法ができる時代になりつつあるので、最初から10

0%を求めるといつまでたっても一步が進めないの、走りながら考える。それで何か問題が起きたらそのときで。議会内の問題ではないので、少々のことは問題にはならない。こういったことはぜひやるべきだと個人的には思う。それをやる、要は今までやったことがないことをやるのは、自分にとってもすごく成長になるし勉強になる。私は前向きに考えている。

○大谷委員

紙ベースの場合はここで論議して共通認識を持った上で担当者が編集して、校正もして出す。SNSの場合、今言った作業は誰がするのか。全員で出す情報を協議するのか。その辺をきちんと認識していかないと、特定の人にお任せとなると議会としてはまずい。それは個人であれば良い。個人でやることと議会としてやることの質は違ってくると思う。そのあたりをどうするかという話をしていかないと、やると決めただからといって流してしまうと、いざやってみて重荷になってはまずい。したがって、言ったからやろうという形でスタートするのは避けたい。もっと先を見据えた上で、大事な共通認識が欲しい。

○肥後委員

タブレットやスマホを皆持っている。例えば今は事務局にやってもらっているLINE WORKSがすごく便利。それで投稿前に皆に文面を見てもらえば、話も早いし誰が見たかが事務局で分かる。今の時代でやりやすいと思った。

○大谷委員

ただその場合、事務局の負担が結構あるのではないかと少し心配する。

○村武委員長

これをやっていくことを今ここで決めるのではなく、これについてやるかどうかを皆で議論していきたいと提案させていただく。もちろん色々なやり方もあるし課題も出てくると思うので、そこはほかの市町のやり方を見たり聞いたりしないといけない。それをした上で私たちが議論して、こういうやり方でやっていこうと決めれば良い。もしかしたら最終的にSNSは難しいという結果になるかもしれないが、そうなったときには先ほど三浦委員からも出たが、若い世代に情報をどのように届けるかは、また考えていかないとはいけないと思う。

○沖田委員

先ほどの大谷委員の意見なのだが、自分はもちろん情報を発信していくことは賛成なのだが、確かに一個人ではなく議会からの情報発信になるので、手軽に投稿というわけには確かにいかないと思う。そう考えたときにやはりこれ、時間を掛けてやっていくべきなのだろうと思う。一番怖いのは、本人は良かれと思った表現でも、色々な取り方がある。LINE WORKSでチェックするという意見が出て、それも一つだとは思う。ではLINE WORKSに流れてくる情報を皆がいちいち精査するかという保証はどこにもないという怖さもある。難しい話だが、やっても当面は試行的にやるべきだろうというのが率直な意見である。

○村武委員長

今すぐにやるというわけではなく、色々な研究をしてと申し上げているの

○沖田委員

他市の事例など参考資料があれば良い。それら踏まえてまた改めて話し合いたい。

○村武委員長

これは本当に時間を掛けて進めていかないといけないとは考えている。

○上野委員

もともとSNSは勉強不足なのだが、昨日旭の今市というところでこういうのへ出た。写真も載って良いことだと思った。ぜひ良いことは進めていっていただきたい。

○川神委員

ぜひ議論を進めていくべきだということで、今後のスケジュールの中できちんと議論し、その中で色々な課題を抽出していけば良い。

○村武委員長

では他市の事例などを調べて、また今後皆と勉強しながら進めていきたい。よろしいか。

(「はい」という声あり)

○小寺主事

一応令和4年度に導入している市議会の状況を1回出したことがあるので、また参考に見ていただければと思う。

○村武委員長

以前こういう資料を出してもらっているのだから、また皆時間があるときに見てもらいたい。正副と事務局とでまた調べていきたい。

(2) その他

○村武委員長

広報活動について、その他何かあるか。

(「なし」という声あり)

3 議会だよりの紙面について

(1) 紙面の見直し及び取扱い

○村武委員長

村山書記から説明をお願いします。

○村山書記

(以下、資料を基に説明)

○村武委員長

この提案に関してだが、先ほどから当委員会委員の負担が少し大きい、やらなければいけないことがたくさんあるのは確かだと思う。当委員会の仕事は、今までは議会だよりの記事を全て委員が書いていたところだと思うが、もし議員全体で関わっていただくことができるものがあれば、振り分けていけば良いのではないかと考えた。

そこでできることを考えたのだが、議会だより内の「委員会活動レポート」は今我々委員が書いているが、各委員会の中である程度協議してもらって、もしできれば各委員の中から誰かが記事を書かれても良いかと感じている。もしかしたら結局は当委員会委員が書かないといけないところもあるかもしれないが、できるだけほかの方にも記事を書いてもらうのはどうかと感じたので、こういう提案をさせてもらった。これに対してご意見いただきたいのだがいかがか。

○三浦委員

この委員会の業務負担について言われたが、やるべきことはやらなければいけないので、負担というよりは。この変更内容には賛成である。理由は、前議長のと時から広報広聴をしっかり頑張っていこうと議長団もずっと言われている中、議会広報広聴委員会だけが広報広聴活動をやるべきではないというのが全体スタンスになっていると思う。どうやって広報広聴活動をしていくかといった活動案をここで検討したりするのは必要なことだと思うが、議会全体でやっていかないと活動の広がりはなかなか。限られた人間でやっていけばそれだけの活動にとどまってしまうので、関わる人が多くなれば色々活動できるようになる。そういうことから、この委員会に所属してない議員、議会全体で広報広聴をやっていこうということで。各委員長を通じてなのか、議長団にも相談いただくのか、そういう全体の活動にしていくときに、委員会活動の執筆についてもぜひ一緒に取り組んでいけないかと、そういう相談をしていくのは賛成である。それによって広報広聴活動の広がりを持っていくという意味合いである。地域井戸端会もここで計画はするが全議員でまちに出て話を聞く。それなら議会だよりも、当委員会で骨格はつくるが全議員で情報を作って発信する。そういうスタンスが議会全体でできたらすばらしいことではないかと思う。案には賛成である。

○川上委員

今の案には賛成なのだが、事実今すでに一般質問の原稿も個々の議員が作っている。それと同じである。そういう形にすれば問題ないので、たまたま「必ず全ての委員会」と書いてあるから、それについてはいかがかと思うが、必要なことは必要に応じてやれば良いと思う。それにとやかく言う気はない。別にここにいる人だけがするわけではないのだから。

○西田委員

今のお二方の意見に対して、特に異論はない。

○村武委員長

必ず全ての委員会が活動レポートを毎回書かないといけないというのは、もしかしたら書かないときも出てくるかもしれない。それは委員会の話合いで出てくるかもしれない。スケジュール的に、委員会で話合いをして今回は活動レポートに書くことがないとなったときに、紙面割りなどにはどのように影響するか。

○村山書記

今回のタイミングであれば、例えば2月19日にこの委員会で構成を決めて担当者を決めたと、それまでのところでどうするかを決めてないと、いわゆる枠が一つ空いて

しまった場合どう埋めるのか。ほかの委員会がいつもより多目に書きたいといった話があれば調整できると思うが、なければ写真でカバー等の対応が必要。

○村武委員長

それまでに決めるとなると、タイミングがあるか。

○村山書記

委員会によってになるかと思う。3常任委員会なら大分前になってしまう。特別委員会であれば、必ずしも直近でできるかどうかというとなかなか難しいかもしれない。掲載したい記事があるかどうかをLINE WORKSで確認するというのは、一つの手段かと思う。

○村武委員長

各委員会で委員会を開いて協議をする際に、今度の議会だよりにはこういうことを載せたいといったことも考えてもらうことはできるだろうか。これを進めていくのは良いと思うが、結局、委員会で話し合っただけで進めていくことができるかどうか。局長はどう思うか。

○下間局長

3常任委員会は定例会議の中で必ず開催されて、議案審議プラス執行部報告事項など、何らかの報告を受けて議論されるので、3常任委員会については何らかの原稿は作れるかと思う。議案の量にもよるかもしれないが、それ以外の特別委員会などは、委員会は開催されるが結果が出ているかどうか分からない。「こういうことを議論している」といったお知らせは必ずできると思う。議会改革推進特別委員会は月2回程度開催しているので、そういうことをお知らせすることはできる。例えば委員会としての原稿が埋まらないためのために、例えば議会用語について説明したり。別の市議会では寄付行為についてお知らせしたりしている。何かストックを持っておいて、空きがあればそういうのを入れても良い。

○川上委員

六つのスペース作っておいて、それは可能だと思う。常任委員会は絶対に何かある。何も無い常任委員会はあり得ないので。

○三浦委員

議会だよりをベースに考えれば四半期に1回なので、特別委員会にして何かしらの議論は絶対にあると思う。それは必ずしも結論が出てないことであっても、委員会活動として今やっていることを説明する記事を書いたほうが良いのではないかと思う。先ほど局長が言われたような、議会関係のミニ情報を加えるなど対応方法はあるのでは。加えて言えば、委員会レポートもボリュームが多いかということもそうでもない。先ほどホームページの話があったが、これは一案だが、例えば委員会でこのようなところが議論になったという委員長報告みたいなものを委員会ごとに作って、それをホームページに上げる。それをさらに要約したものがトピックスとして委員会活動レポートに載っていく。そうすると、例えばYouTubeの動画は情報がそこにストックされているだけなので、人はなかなか見に来ない。今日は議会広報広聴委員会でこう

いう議題をやったと、正副なのか担当者なのか、要約したものを上げて詳しくはYouTubeを見てもらうといった記事を議会のホームページに、要約したものをきちんと議員目線で書いていくことをすれば、情報発信の役割は一つできるかと思う。議会だよりは年4回のわずかな部分だし、議会だよりminiには全委員会が書くほどのスペースがない。そういうことをやっていきながら、議会だよりminiに何を載せるか、本紙に何を載せるかという取捨選択をあとはすれば良い。

そもそも情報の作り方を議会だよりをベースに考えるのではなく、常時議会がどのように動いているかをきちんと議員側が、委員会ごとに作っていく。それを発行するタイミングに載せる。そういうスタンスにすれば、議会のほうでの議員目線、委員会目線の入った情報が作られていく。そういうイメージが湧いた。これは一案なので、今後のやり方については議論すれば良いと思う。先ほど川上委員が言われたように、六つの委員会枠を持っておいて、それをベースに考えていくことに賛成である。

○川上委員

今言われたように、普段言っていることを要約するだけなら、それほど難しいものではない。ピックアップのやり方だけである。

○村武委員長

今までも委員会活動レポートの枠、今なら六つあるが、それを当委員会の中で誰が書くかを決めて、各委員がこれについて書こうという、そこは多分個人的な思いで書かれていると思うが、そこを委員会の中で考えてもらい、さらには記事を書いてもらうということもして良いのではないかと考えている。そこはどうだろうか。

○三浦委員

この委員が何を書くか選んで、ということか。

○村武委員長

今は各委員がこれについて書こうというのを考えて書いている。そうではなく、委員会の中で、今度の議会だよりはこれについて書いたら良いのではないかとということ話し合っていたら、記事を書くのも委員の中から順番に書いてもらっても良いのではないかと、と言いたい。

○三浦委員

賛成である。

○西田委員

委員が書くというのは。

○村武委員長

例えば総務文教委員会なら、総務文教委員会の委員が記事を書く。

○西田委員

そのほうが良いかもしれない。

○村武委員長

上がってきた記事に対して直しを入れるなどは私たちがすることも必要だとは思うが。よろしいか。

(「はい」という声あり)

では、これをどのように進めていくか。常任委員会の委員長などをお願いするなどしないといけないので、そこは正副でどのように進めるか決めさせていただき、また皆にお伝えしたい。議長いかがか。

○笹田議長

委員会でやってもらって構わないし、最初に言われたように、広報広聴活動は全体の問題だと思う。今は少しずつ広がりつつあると思うが、さらに拡充すれば良い。

○村武委員長

ではそのように進めていきたい。議会だよりの紙面について前回皆から提案いただいた案はまだいくつかあるが、そこは追々検討していきたい。本日は今回提案した紙面の見直しについて決めた。

○村木副委員長

次はいつか。

○小寺主事

5月下旬に全員協議会があるので、そこで説明すれば6月上旬の議会広報広聴委員会で紙面内容を決めることになるので、そこでお願ひできればと思う。

○村木副委員長

それまでに各委員長に説明してお願いするのか。

○下間局長

それまでに3常任委員会がある。

○村木副委員長

目標はその時期からということで理解した。

(2) その他

○村武委員長

議会だよりの紙面について、その他何かあるか。

(「なし」という声あり)

4 その他

○村武委員長

次の委員会について、村山書記からお願いする。

○村山書記

次回は4月5日金曜日の9時から、内容としては議会だよりの校正を予定している。もしこの日以外となると校正が難しくなるかと思うので、4月5日の9時からということでご協力をお願いする。

○村武委員長

4月5日午前9時からということで、よろしいか。今回またタイトになってしまうの

だが、それでよろしく願います。

ほかになれば、これで終えたいがよろしいか。

(「はい」という声あり)

以上で議会広報広聴委員会を終了する。今日は皆からご意見をたくさんいただいた。本当に感謝する。これからも前に進んでいける議会広報広聴委員会にしていきたいと思うので、ご協力のほどよろしく願います。

[16 時 34 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会広報広聴委員会委員長 村武 まゆみ